

境界線上の



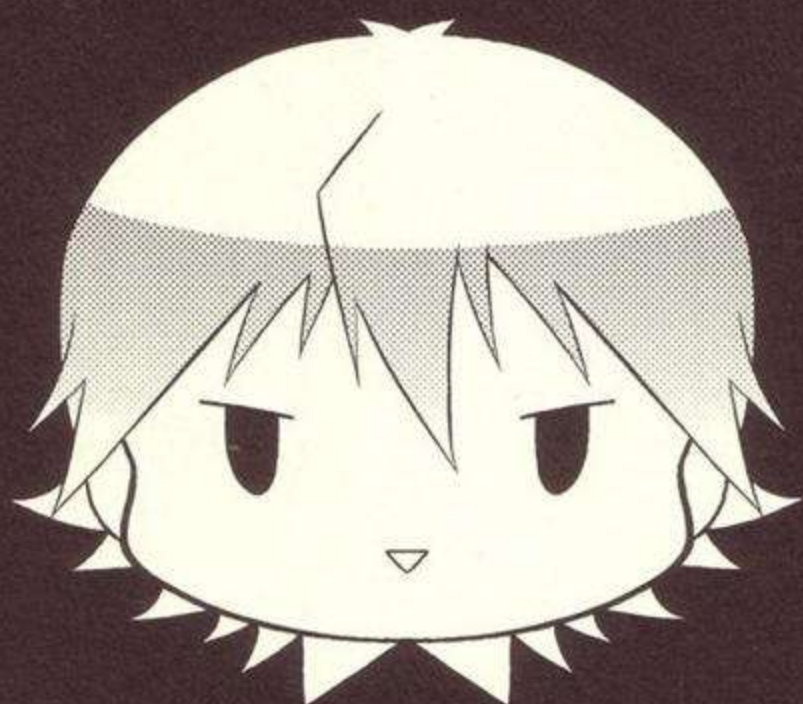
S

と

M



シンジが何かかわいそうなキャラのうえに  
なんて言うかビッチ臭がするよ！  
ほぼ逆レイプのようで襲っているかの如くですが  
あくまで53だよ！



# まえがき。

こんにちは又ははじめまして。  
nsjの佐伯です。久しぶりのまともな  
53のつもりが、何が何やらこんなお話に  
なりました。


まるで逆カプのようですが私自身びっくりです。  
出来上がった原稿を見て一番びっくりしたのは私です。  
まさか攻めの●●シーン描くことになるとは思わ  
ななんだ。一体誰が得するんだろう。

一応今回最初単純にSとMでやろうと思っていたのに、  
出来上がってみれば普段の私でした。  
テーマ通りというのはむつかしいものですね。

とにかく楽しんで頂ければ幸いです。  
次回こどもまともな53を描ければと  
思いますが予定は未定です。

では！

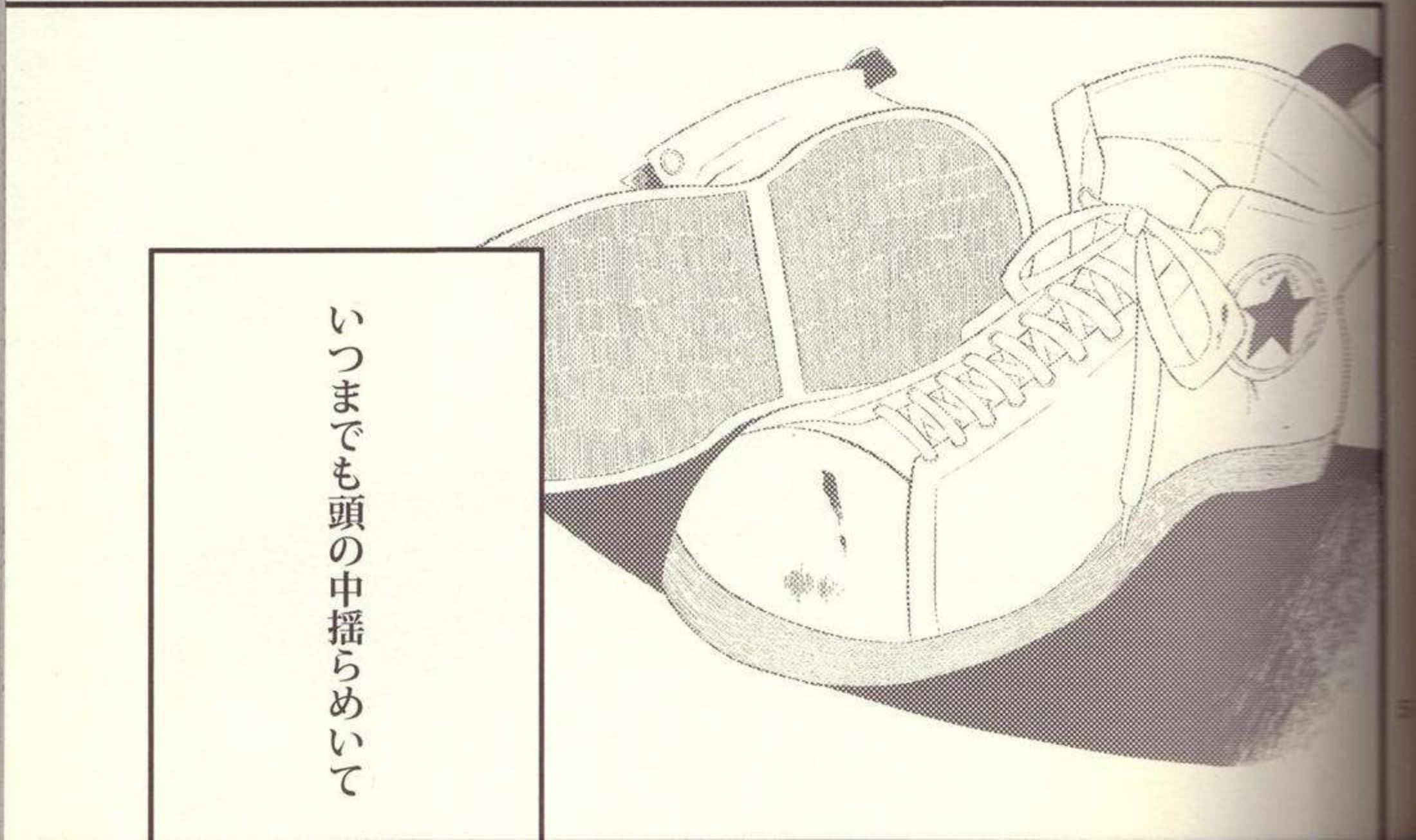




お前、僕を抱いてみろよ。



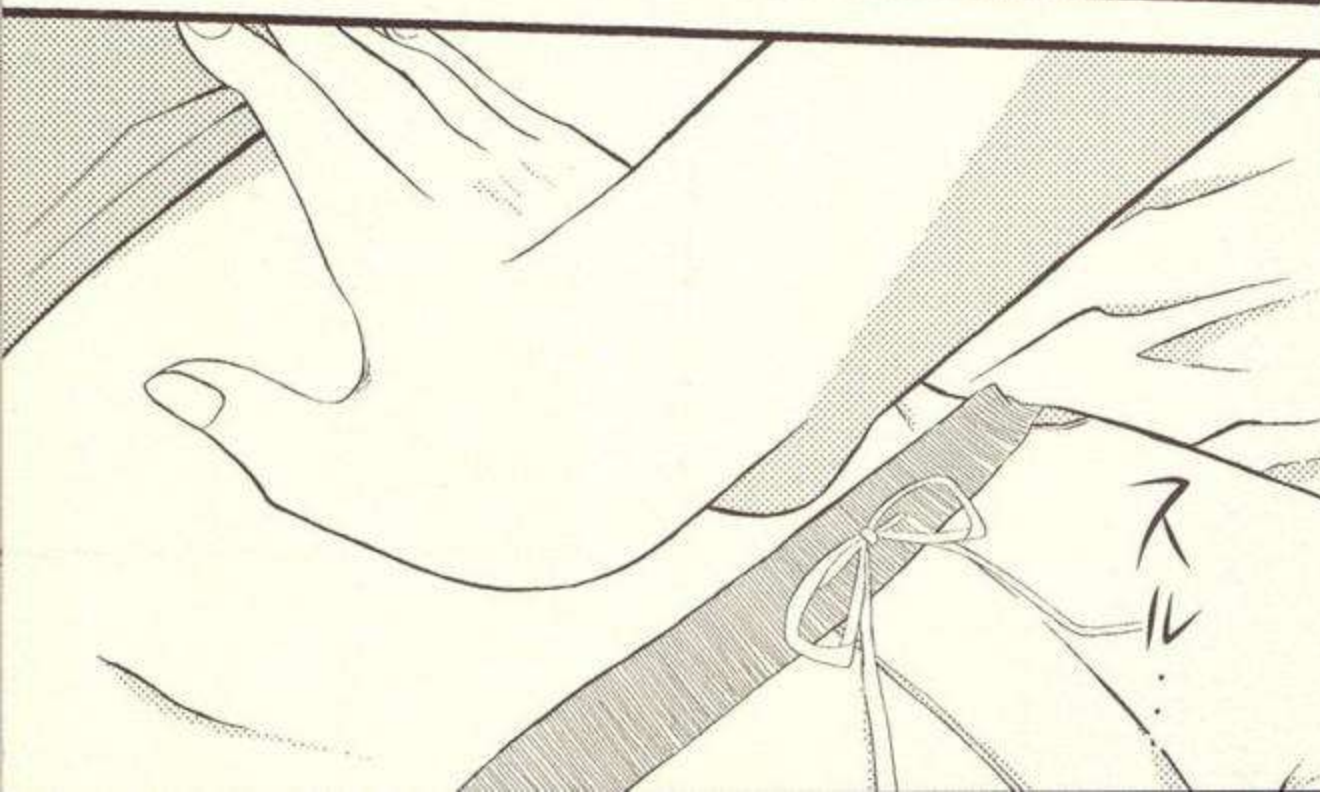
そう冷たく言い放った  
君の目が、



いつまでも頭の中揺らめいて

境界線上のSとM







シシシ...

黙れ

ス  
ル、

!



千



お前は何も喋るな。  
動きもするな。

そんなに僕の事が  
好きだって言うならー


キッ...



黙って僕の  
言う事聞けよ



ホモ野郎。



僕は

シンジ君が好きだ





話をさらさないでよ

胡散臭い事を言うな  
馬鹿。お前が僕を好き  
になる理由がどこにある？

オトコハオトコヲ

スキミナラナイヨ

お前も諦めが  
悪いなあ

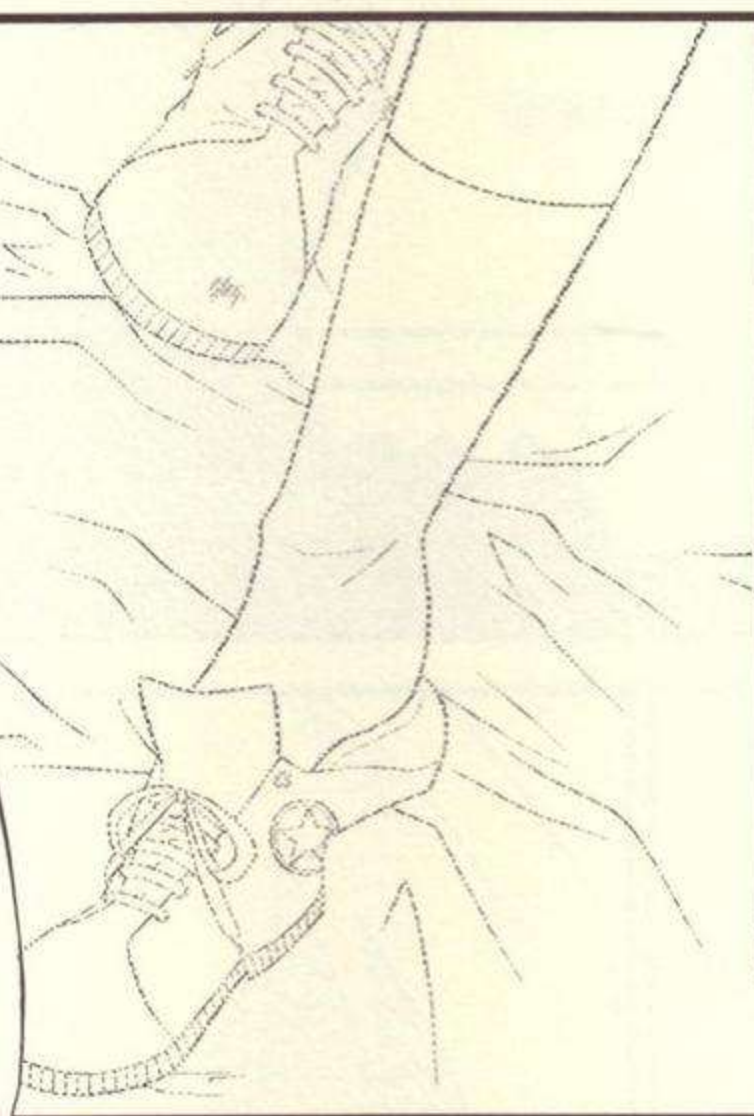
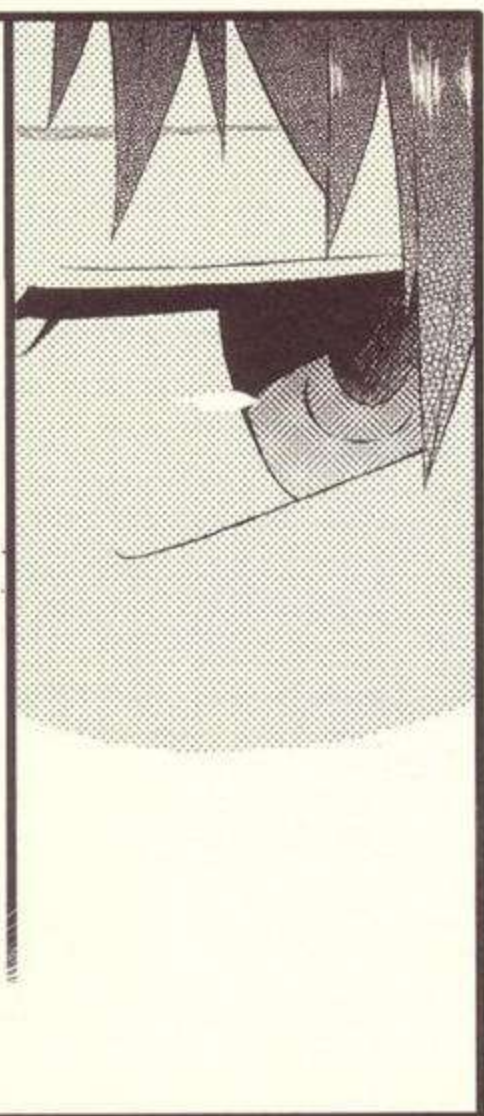
僕はお前が好きじゃ  
ない。それで終わり。

思考停止しろよ。  
大体男同士だろ。

—どうすれば  
信じてくれる？

思考停止しているのは  
君の方だろ。

論点のすりかえばかりで  
僕に向き合おうともしない



そこまで言うなら

試してやろうか？

!

お前が男だって分かってて  
僕を抱けるのか試してやるよ。  
だって好きなんだから？

僕のありのままを見て、  
そして絶望すれば良いんだ

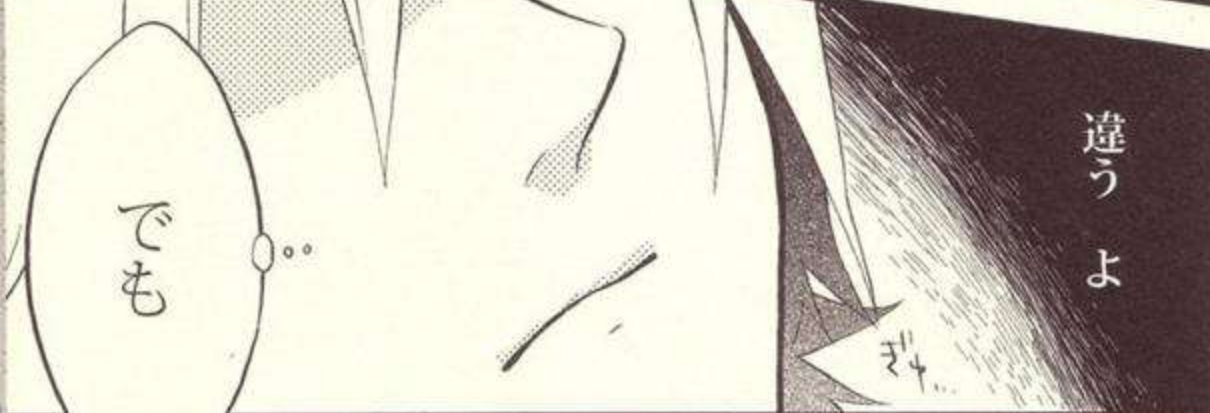
あ

は、



動くなよ

この変態。



違うよ

でも...



僕には伝える  
権利すらない

っ、

お前もどうせやれれば  
何だっていいんだろ？



—お前は、

お前はただ僕に  
犯されれば良いんだ

そして僕に  
失望すれば良いんだ

お前も

ギ

ギ

いやだいやだ  
やめてよ

ギ

ギ

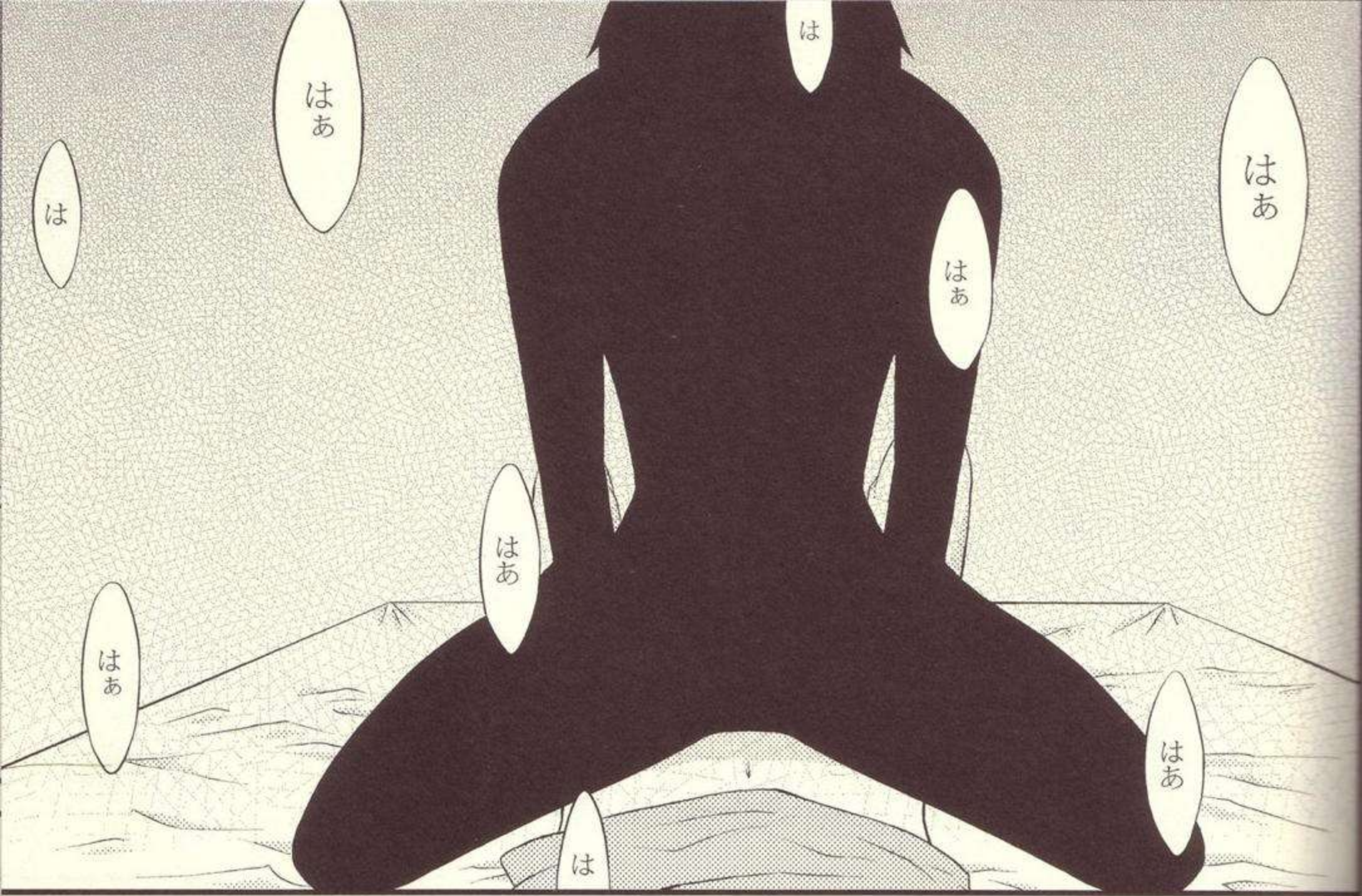
いやだ

助けて

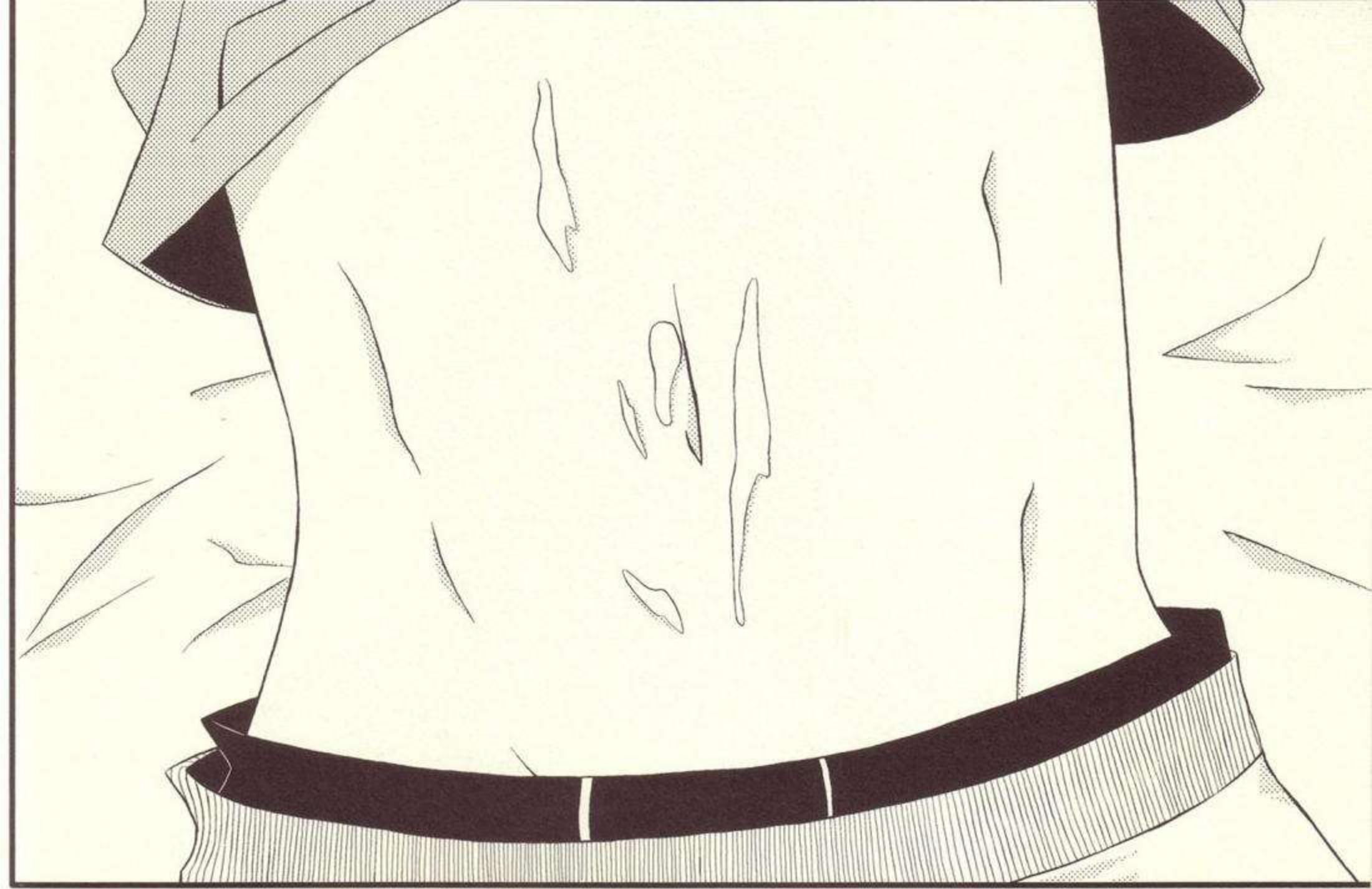
どうせん

ん

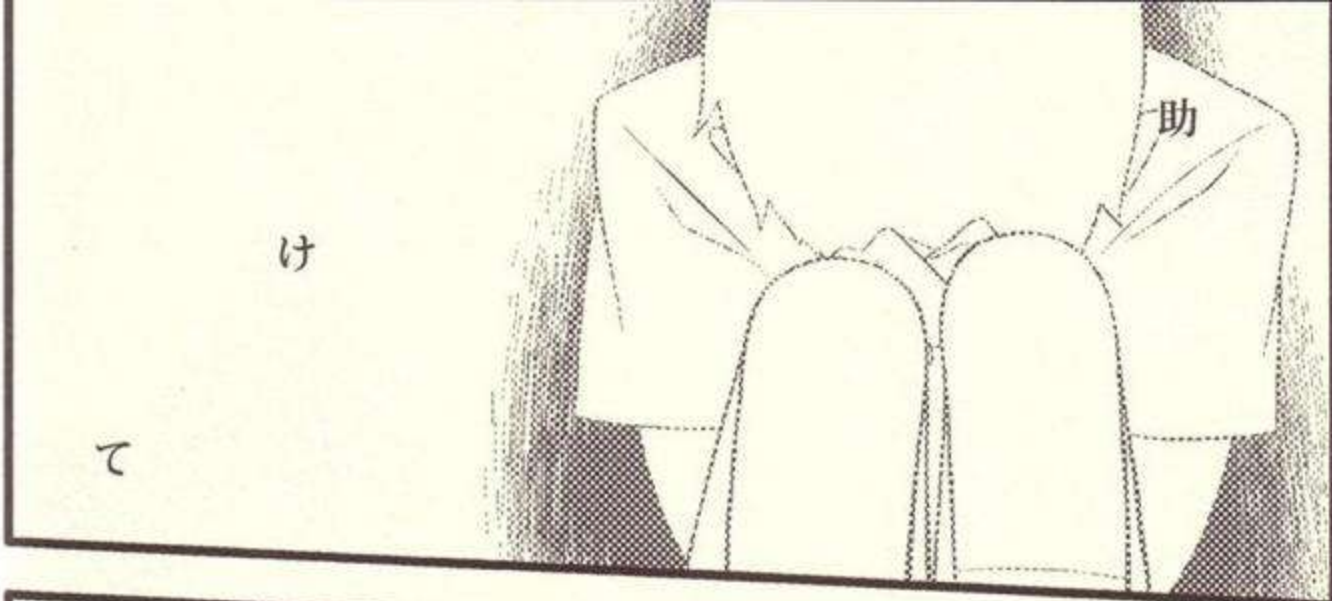
う











たすけて

僕は……  
好きだ。

僕じゃ……だめ？

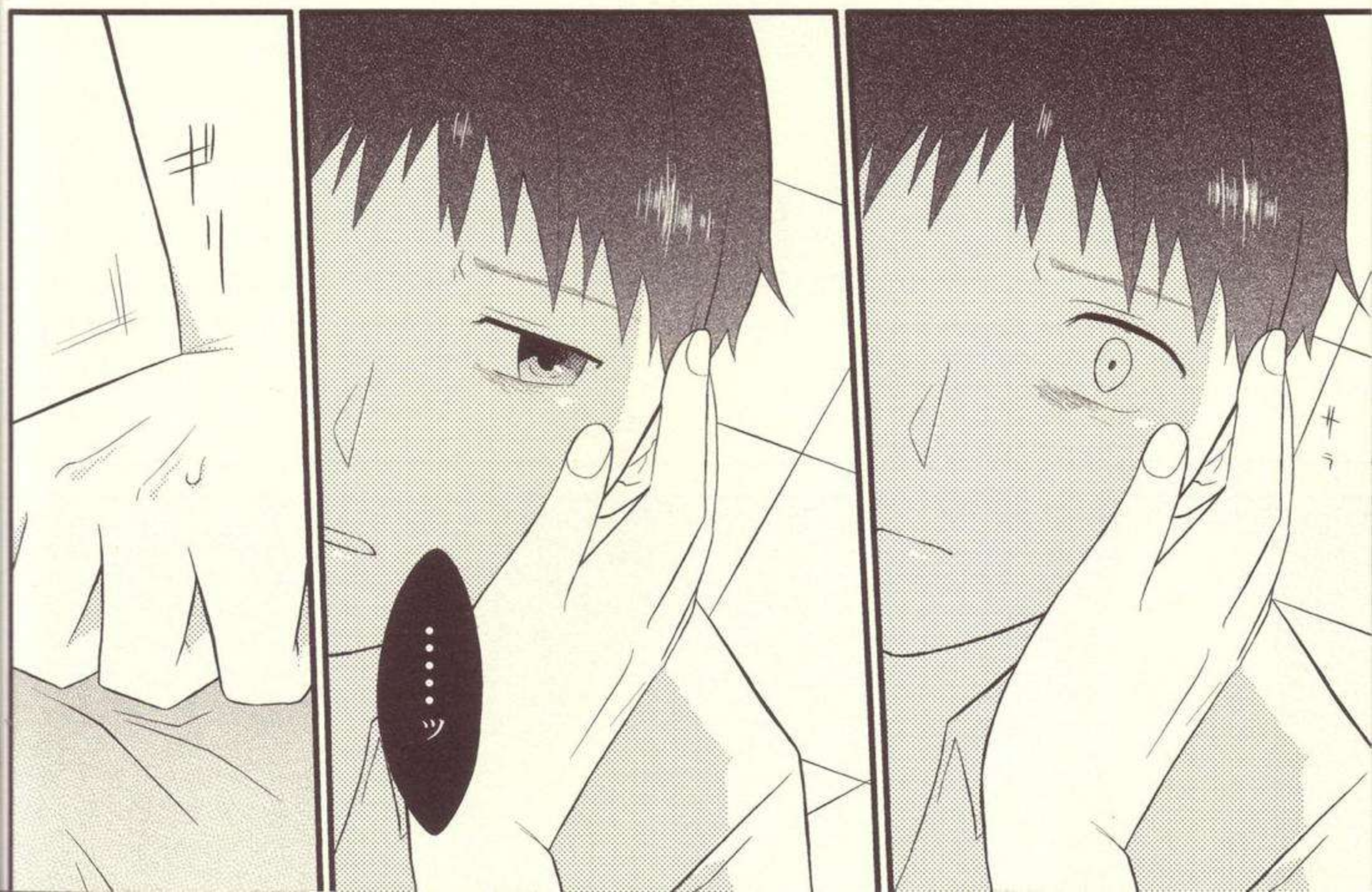
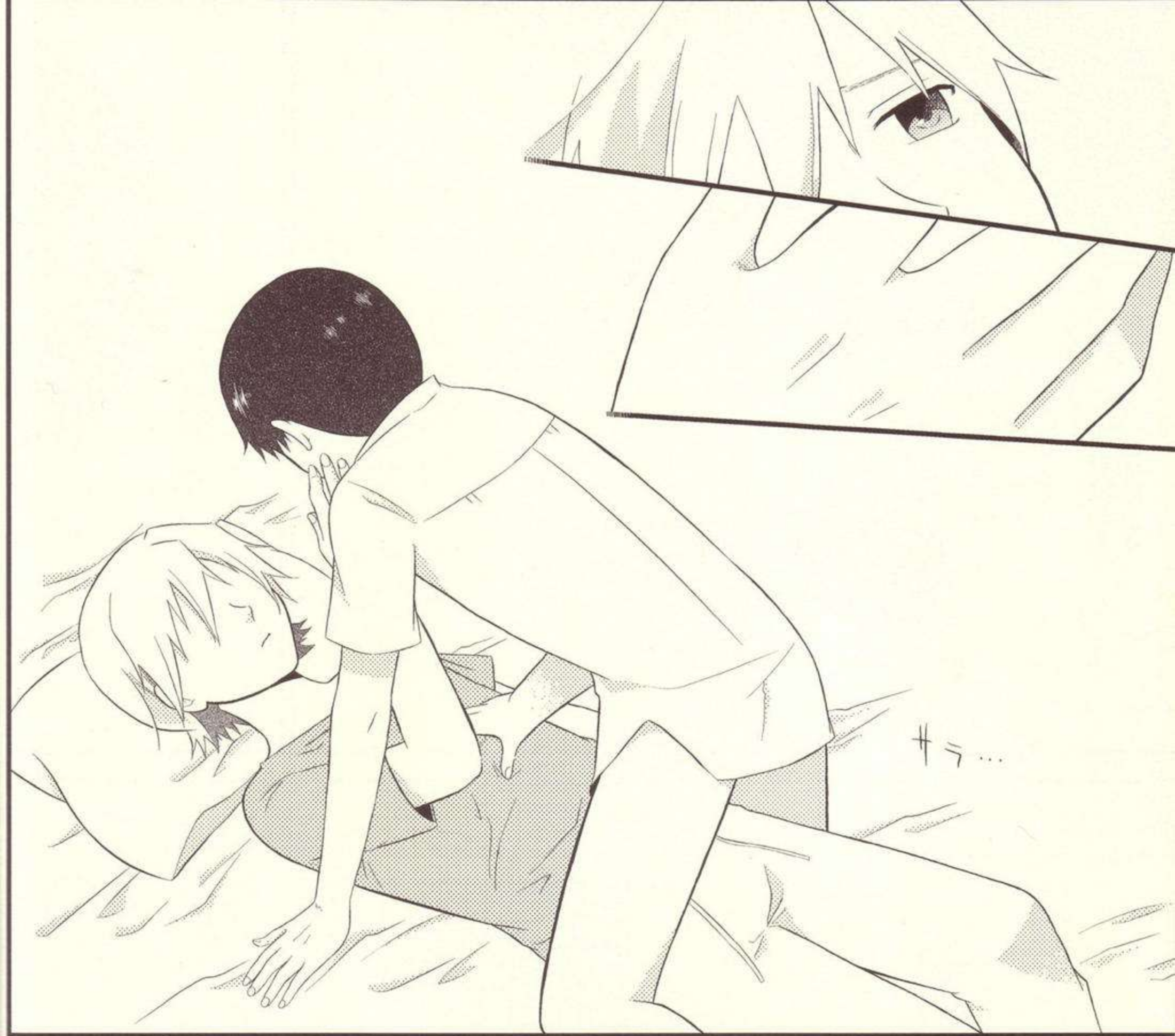
黙れ


誰か

僕の事が好きになる人間が  
いるなんて信じるもんか……

信じるもんか……

1/20 1/100





信じるもんか……

「僕は、



信じない……

君が、好きだよ。

ここまで読んで下さってありがとうございました！  
次ページからはおまけのss(庵版53)です。  
どうも私はまっとうに萌えるものが描けない様です。

印刷／金沢印刷様

発行日／10/8/13

nsj／佐伯ケンヂ

<http://nurumi.sakura.ne.jp/zenmai/>

禁・無断転載、オークション

それではまた！





その事に今更異議を申し立てるでもなかったけれど、かといって決して慣れたわけではなかった。

僕等は孤独だった。彼には誰ひとり彼を解してくれる人はいなかったし、僕はもともとひとりだった。

孤独だということを言葉にして言い合ったわけではない。ただお互いに孤独だということにはすぐに気がついた。だからこそ惹かれ合ったし、だからこそお互いの求めるものが何なのかすぐに気がついた。

相手が何を求め泣いているのかを知っている。それは自分も同じ事だ。それを慰め合うことに、一体何の不都合があるのか。共感されこそすれ、非難されるいわれは、ない。

「あああああつ……」

彼が脚を暴れさせる度に、ベルトの皮がぎしりと痛む。

彼はこういう行為の、特に拘束されながらすることを好んだ。

まるで抱きしめられているようだからだそう。何となくわかるようで、僕にはそれが微笑ましく、愛おしい。

そう、僕は彼を愛おしいと思っている。この、父親を求めて泣き続けている、小さな男の子を、愛おしいと思っている。

人に求められるというのはとても心地の良いことだ。自分はここにいてもいいのだという、錯覚を覚えて、その錯覚すら愛おしくなる。

ぼくは、ぼくらは、ここにいてもいいのだと、お互いに許し合っているのだ。

寂しい。僕は、僕等は どうしようもなく寂しい。だからこの痛みまでの快楽で、本当の痛みを誤摩化しながら、なんとか今日も生きている。

彼が息を切らしながら、僕を抱きしめる。達したばかりの体は体温が高く、まるで幼子のような。その温かさにつつまれながら、僕は少しだけ、安堵する。柔らかな嘘に、羽を休める。

「あいしてるよ、カヲル君」

「ぼくもだよ」

君が僕を裏切らない限り。

僕が君を裏切らない限り。

ぼくらはおたがいをあいしあう。

おたがいのようきゆうをえんじきって。

『よくできました』



境界線LOSとM Rated 15